

8 財政状況について（税抜き）

(1) 比較貸借対照表

水道事業と鶴形簡易水道事業を合わせた資産、負債及び資本の状況は次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分		22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率 $\frac{(A) - (B)}{(B)} \times 100$
資 産	固定資産				
	有形固定資産	13,995,325,635	13,856,022,545	139,303,090	1.0
	無形固定資産	6,855,058	7,158,598	-303,540	-4.2
	計	14,002,180,693	13,863,181,143	138,999,550	1.0
	流動資産	318,577,013	347,391,541	-28,814,528	-8.3
資産合計		14,320,757,706	14,210,572,684	110,185,022	0.8
負 債	固定負債	0	0	—	—
	流動負債	67,640,445	66,695,157	945,288	1.4
	負債合計	67,640,445	66,695,157	945,288	1.4
資 本	自己資本金	2,663,545,914	2,637,972,838	25,573,076	1.0
	借入資本金	7,178,698,355	7,279,352,435	-100,654,080	-1.4
	計	9,842,244,269	9,917,325,273	-75,081,004	-0.8
	剰余金				
	資本剰余金	4,290,121,322	4,144,186,443	145,934,879	3.5
	利益剰余金	120,751,670	82,365,811	38,385,859	46.6
	計	4,410,872,992	4,226,552,254	184,320,738	4.4
資本合計		14,253,117,261	14,143,877,527	109,239,734	0.8
負債・資本合計		14,320,757,706	14,210,572,684	110,185,022	0.8

当年度末の資産は14,320,757,706円で、前年度に比較して110,185,022円（0.8%）の増となっており、この主な要因は配水設備の増によるものである。

負債は67,640,445円で、前年度に比較して945,288円（1.4%）の増となっており、流動負債の主な内容は、営業未払金25,694,713円のほか、未払消費税5,232,700円及び下水道預り金36,274,972円である。

資本は14,253,117,261円で、前年度に比較して109,239,734円（0.8%）の増となっている。資本の主な内容は、建設改良工事に伴う一般会計からの出資金、企業債、国庫補助金、工事負担金等である。

(2) 資 産

当年度の資産の増減及び内訳は次のとおりである。

①有形固定資産

(単位：円)

区 分		年度当初現在高 (A)	当年度増減額 (B)	減価償却累計額 (C)	年度末償却未済高 (A) + (B) - (C)
水道事業	土 地	179,686,741	0	—	179,686,741
	建 物	533,444,927	0	183,065,753	350,379,174
	構 築 物	14,262,225,207	440,786,839	3,124,555,557	11,578,456,489
	機 械 及 び 装 置	2,884,814,786	595,830	1,173,522,476	1,711,888,140
	車 両 運 搬 具	8,306,381	0	7,916,644	389,737
	工 具 器 具 及 び 備 品	80,283,919	5,356,000	48,098,373	37,541,546
	建 設 仮 勘 定	22,353,337	-12,526,337	—	9,827,000
	計	17,971,115,298	434,212,332	4,537,158,803	13,868,168,827
鶴形簡易水道事業	構 築 物	139,447,121	0	13,256,715	126,190,406
	機 械 及 び 装 置	393,916	0	12,994	380,922
	工 具 器 具 備 品	476,000	238,000	128,520	585,480
	計	140,317,037	238,000	13,398,229	127,156,808
合 計		18,111,432,335	434,450,332	4,550,557,032	13,995,325,635

有形固定資産の当年度増減額が434,450,332円、減価償却累計額が4,550,557,032円となっており、当年度末償却未済額は13,995,325,635円となっている。

水道事業における有形固定資産の主な増加の内容は、次のとおりである。

(構築物)

構築物は、主に、鑄鉄管更新工事、下水道工事に伴う配水管移設工事により配水設備が増となっている。

②流動資産

(単位：円、%)

区 分		22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率 $\frac{(A)-(B)}{(B)} \times 100$
水道事業	現金預金	247,874,526	286,571,031	-38,696,505	-13.5
	未収金	36,694,637	32,057,016	4,637,621	14.5
	貯蔵品	7,119,000	4,244,340	2,874,660	67.7
	その他の流動資産	10,135,301	10,559,472	-424,171	-4.0
	合計	301,823,464	333,431,859	-31,608,395	-9.5
鶴形簡易水道事業	現金預金	16,516,071	13,316,865	3,199,206	24.0
	未収金	210,278	632,507	-422,229	-66.8
	貯蔵品	27,200	10,310	16,890	163.8
	その他の流動資産	0	0	-	-
	合計	16,753,549	13,959,682	2,793,867	20.0
合計		318,577,013	347,391,541	-28,814,528	-8.3

流動資産は318,577,013円で、前年度に比較して28,814,528円(8.3%)の減となっている。これは、当年度末における現金預金の残高が、前年度末に比較して35,497,299円減少したことが主な要因である。

(3)負債

①流動負債

(単位：円、%)

区 分		22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率 $\frac{(A)-(B)}{(B)} \times 100$	
水道事業	未払金	営業未払金	23,749,438	22,609,116	1,140,322	5.0
		未払消費税	5,177,800	0	5,177,800	皆増
		その他未払金	438,060	4,587,250	-4,149,190	-90.5
		計	29,365,298	27,196,366	2,168,932	8.0
	その他流動負債	預り金	36,274,972	37,330,572	-1,055,600	-2.8
		その他の流動負債	0	0	-	-
		計	36,274,972	37,330,572	-1,055,600	-2.8
	小計		65,640,270	64,526,938	1,113,332	1.7
	鶴形簡易水道事業	未払金	営業未払金	1,945,275	1,977,019	-31,744
未払消費税			54,900	0	54,900	皆増
その他未払金			0	191,200	-191,200	皆減
計			2,000,175	2,168,219	-168,044	-7.8
合計		67,640,445	66,695,157	945,288	1.4	

流動負債は67,640,445円で、前年度に比較して945,288円(1.4%)の増となった。この主な要因は、未払消費税の増等によるものである。

(4)資 本

当年度の資本の状況は次のとおりである。

(単位：円、%)

区 分		2 2 年度 (A)	2 1 年度 (B)	比 較 増 減 (A) - (B)	増 減 率 $\frac{(A)-(B)}{(B)} \times 100$
水 道 事 業	自己 資本 金	0	0	-	-
	固有資本金	0	0	-	-
	繰入資本金	1,794,667,870	1,770,481,794	24,186,076	1.4
	組入資本金	853,111,498	851,742,498	1,369,000	0.2
	計	2,647,779,368	2,622,224,292	25,555,076	1.0
	借入資本金	7,086,198,355	7,186,852,435	-100,654,080	-1.4
	資本金計	9,733,977,723	9,809,076,727	-75,099,004	-0.8
	剰余金				
	資本剰余金	4,261,734,685	4,115,799,806	145,934,879	3.5
	利益剰余金	115,494,671	77,546,803	37,947,868	48.9
計	4,377,229,356	4,193,346,609	183,882,747	4.4	
水道事業計	14,111,207,079	14,002,423,336	108,783,743	0.8	
鶴 形 簡 易 水 道 事 業	自己 資本 金	15,512,546	15,512,546	0	0.0
	繰入資本金	0	0	-	-
	組入資本金	254,000	236,000	18,000	7.6
	計	15,766,546	15,748,546	18,000	0.1
	借入資本金	92,500,000	92,500,000	0	0.0
	資本金計	108,266,546	108,248,546	18,000	0.0
	剰余金				
	資本剰余金	28,386,637	28,386,637	0	0.0
	利益剰余金	5,256,999	4,819,008	437,991	9.1
	計	33,643,636	33,205,645	437,991	1.3
鶴形簡易水道事業計	141,910,182	141,454,191	455,991	0.3	
合 計	自己 資本 金	15,512,546	15,512,546	0	0.0
	繰入資本金	1,794,667,870	1,770,481,794	24,186,076	1.4
	組入資本金	853,365,498	851,978,498	1,387,000	0.2
	計	2,663,545,914	2,637,972,838	25,573,076	1.0
	借入資本金	7,178,698,355	7,279,352,435	-100,654,080	-1.4
	資本金計	9,842,244,269	9,917,325,273	-75,081,004	-0.8
	剰余金				
	資本剰余金	4,290,121,322	4,144,186,443	145,934,879	3.5
	利益剰余金	120,751,670	82,365,811	38,385,859	46.6
	計	4,410,872,992	4,226,552,254	184,320,738	4.4
合 計	14,253,117,261	14,143,877,527	109,239,734	0.8	

自己資本金は2,663,545,914円で、前年度に比較して25,573,076円(1.0%)の増となっている。この内訳は、一般会計からの補助金による繰入資本金の増、減債積立金の取り崩しに伴う組入資本金の増等である。

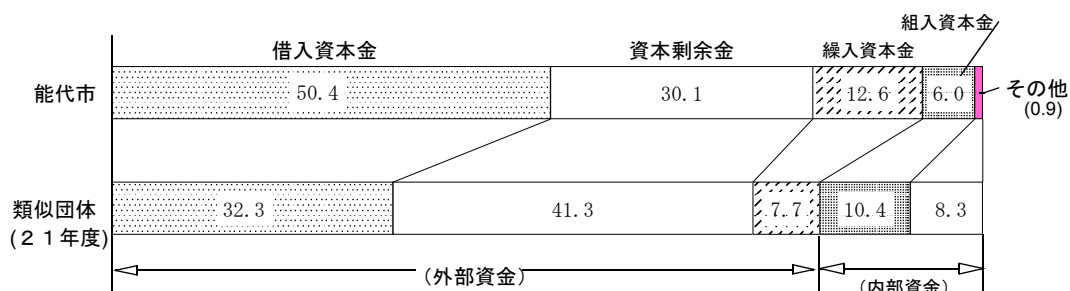
借入資本金は7,178,698,355円で、前年度に比較して100,654,080円(1.4%)の減となっている。これは、企業債の元金償還残高が減少したことを示している。

剰余金は4,410,872,992円で、前年度に比較して184,320,738円(4.4%)の増となっており、主な内容は、老朽管更新事業及び北東部地区配水管布設に係る国庫補助金などである。

資本は資産を形成する財源であるが、その内訳をグラフにすると次のとおりである。

表示文字列

資本構成・類似団体平均との比較 (単位：%)



これを見ると、借入資本金が半分以上を占め、国庫補助金等の資本剰余金が30.1%と続いている。さらに一般会計補助金等の繰入資本金が12.6%で、減債積立金等の使用による組入資本金が6.0%、その他0.9%となっている。このことは、現在の資産を得る財源として使われた金額のうち、水道事業から得られた利益等の内部資金が6.9%しかなく、大部分を外部からの資金に頼っていることを示している。

また、類似団体と比較した場合、本市は借入資本金と繰入資本金の割合が非常に高く、建設改良事業のための資金調達方法が、企業債と一般会計からの補助金や出資金に偏っていることが分かる。

(5) 企業債の状況

過去5年間の企業債の推移は次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
前年度末未償還額 A	6,908,798	7,138,307	7,454,492	7,332,957	7,279,352
当年度償還額 B	213,591	363,115	524,435	444,805	303,254
当年度借入額 C	443,100	679,300	402,900	391,200	202,600
当年度末未償還額 A-B+C=D	7,138,307	7,454,492	7,332,957	7,279,352	7,178,698
当年度償還財源 F+G=E	278,610	309,525	298,465	321,362	340,044
減価償却費 F	256,433	282,230	290,421	293,634	300,271
当年度純利益 G	22,177	27,295	8,044	27,728	39,773
償還額対財源比率 B/E	76.7	117.3	175.7	138.4	89.2
償還額対減価償却費比率 B/F	83.3	128.7	180.6	151.5	101.0

※18年度から鶴形簡易水道事業分を含む。

年度末における未償還額は7,178,698千円で、前年度末に比較して100,654千円の減となった。

企業債の償還元金、利息、元利償還金、それぞれの料金収入に対する比率の推移は、次のとおりである。

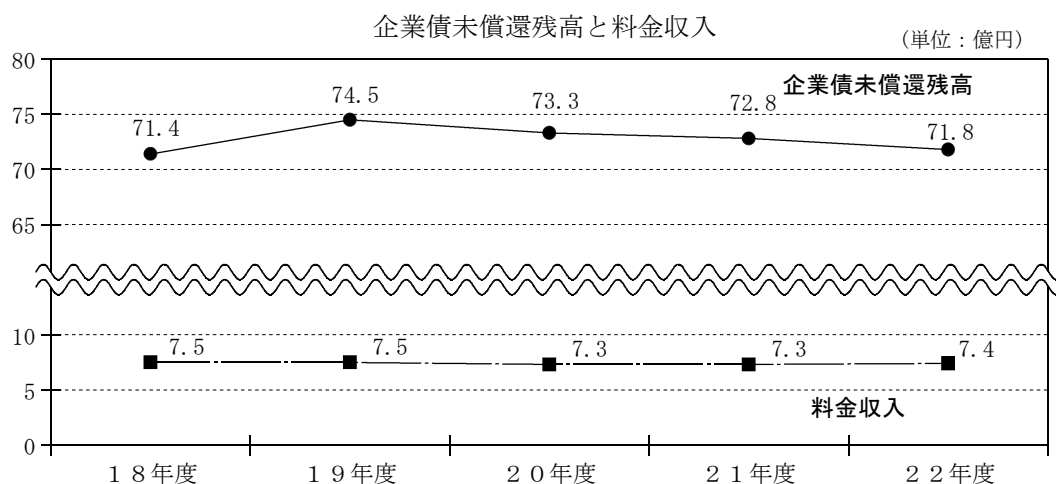
(単位：%)

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	21年度 全国平均
① 企業債償還元金元金 対料金収入比率	28.6	48.3	72.2	60.8	40.9	25.3
② 企業債利息 対料金収入比率	26.1	26.1	26.1	23.9	22.3	11.1
③ 企業債元利償還金 対料金収入比率	54.7	74.4	98.3	84.7	63.2	36.4

(注) 料金収入＝給水収益。比率は、いずれも低いほどよいとされている。

前年度に比較して料金収入が増加したこと、元利償還金が減少したことにより、当年度では①から③の比率がすべて低くなっている。

また、年度別の企業債未償還残高と料金収入をグラフにすると、次のとおりである。



当年度末の企業債残高は料金収入の約10倍の額で、企業債元利償還金も毎年度、料金収入の半分以上となっている。